

水質浄化研究でカワセミを確認 (尼崎運河水質浄化施設の人工干潟にて)

徳島大学が共同研究を行っている尼崎運河水質浄化施設の人工干潟でカワセミが飛来した様子が確認されました。

(報道概要)

兵庫県阪神南県民センターと徳島大学が実施している共同研究において、水質浄化と生態系創出の向上効果を把握するためにインターバルカメラを設置し、2017年7月から9月までの期間連続して人工干潟の生態を撮影していたところ、記録されていたものです。

- 1 確認された日時 平成29年8月8日(火)10時～11時頃
- 2 確認された場所 尼崎運河水質浄化施設



干潟の淺筋に生息している小魚をねらっているカワセミ

【カワセミの概要】

ひすいのような美しい体色をしていて「飛ぶ宝石」と言われている。

- ・分布:日本全国で見られる
- ・生態:魚類や水中昆虫、エビ、カエルなどを捕食
- ・分類:カワセミ科カワセミ属

3 徳島大学の山中亮一講師のコメント

「この周辺は阪神工業地帯の中心部に位置しており、自然豊かな清流を好むカワセミが飛来するとは想像していませんでした。カワセミの他にも、様々な鳥類の飛来が確認されており、これは、この人工干潟が自然の一部として生態系に利用されていることや、尼崎運河における自然再生の実現の可能性を示す結果であると考えています。」

(参考)尼崎運河水質浄化施設の概要

二枚貝や海藻など生物の浄化作用で水質を浄化する機能と手漕ぎボートなどの運河水面を利用できる親水機能を兼ね備えた施設で県が整備、平成24年3月完成。

市民や学生による水質浄化活動、大学・高校などの調査研究、環境学習、イベント等に活用。

